

11/3 OPEN

八戸市美術館



八戸市美術館イメージパース

美術館の設計は、公募型プロポーザルで選ばれた西澤徹夫建築事務所・タカバンススタジオ設計共同体が担当。展示室やスタジオなどの専門性の高い個室群と、エントランスやイベントスペース、プロジェクトルームを兼



上／八戸市美術館イメージパース(ホワイトキューブ)



下／八戸市美術館イメージパース(ギャラリー2)

アートファーム)。作物が実るように人やまちが育つ、畑(ファーム)のような美術館と言えるだろう。美術館(アートファーム)は、従来の立場や枠組みを超えて、人や作品との出会いの輪を広げていく。出会いは学びが芽吹く種のようなもの。出会いからは、一緒に話したり、つくったりといったアクションが生まれ、そこから得た学びが栄養となって感性

や創造力が育まれていく。そうして育まれた力は、やがてまちをより豊かに、実り多いものにするのだ。美術館の設計は、公募型プロポーザルで選ばれた西澤徹夫建築事務所・タカバンススタジオ設計共同体が担当。展示室やスタジオなどの専門性の高い個室群と、エントランスやイベントスペース、プロジェクトルームを兼

© Yuichiro Tamura



新たな様々な活動を支える巨大な空間「ジャイアントルーム」で構成されている。新しい美術館は従来の枠を超えて、学びの活動の場となることを目指しているのだ。

八戸市美術館の再スタートにあたり、新しいシンボルマークもつくられた。このシンボルマークは、新しい美術館が八戸の未来を描くための「大きな

青

森県八戸市にある八戸市美術館が、2021年11月3日、新しく生まれ変わってオープンを迎える。

かつての八戸市美術館は、旧八戸税務署の建物を改修・転用するかたちで1986年に開館。その後、閉館までの約30年間を地域とともに歩んできた。建物の老朽化や展示・収蔵機能の不足から、2016年には新美術館建設推進室が設置され、新美術館の整備がスタート。2017年の旧美術館閉館時のクロージングイベントには、多くの人々が詰めかけた。

新美術館の整備にあたっては、公募型プロポーザルや市民意見交換会などの方法を採用。情報発信の場として「はちのへまちなかアートラボの部屋」が設置されるなど、ソフト・ハードともに、広く開かれた形で進められた。

新しい八戸市美術館のテーマは、「種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館」出会いと学びの

楽しめる展覧会やプロジェクトが開催される予定だ。この館の特徴のひとつに、テーマに合わせてチームを組んで探求するプロジェクト型の活動がある。福祉や地域コミュニティなど、美術とは異なる分野ともアートを通して

つながり、様々なプロジェクトを展開。こうしたアートを通じた出会いが人を育み、人の成長がまちを育む……。ワクワクするような100年後の八戸を、目指すみんなのアートファーム、八戸市美術館がいよいよ開館する。

©八戸市美術館



な土台」になってほしいという思いから、シンボル上部に大きな円形の空間が現れるようにデザインされている。美術館で生まれるものごとが、未来の空白に次々描かれていくことをイメージしている。

八戸の美や文化を伝える作品約3千点を収蔵する八戸市美術館。それらの作品を中心に、まちづくりや学びの要素を取り入れ、多くの人々が参加して



七尾英鳳《十和田湖春秋》1922年 八戸市美術館蔵



豊島弘尚《北辺都市I》1993年 八戸市美術館蔵



八戸市立漢中学校養護学級生徒共同制作
《虹の上をとぶ船総集編II 星空をベガサスと牛が飛んでいく》1976年 八戸市美術館蔵

+information

八戸市美術館
住 所：青森県八戸市大字番町10-4
TEL：0178-45-8338
URL：https://hachinohe-art-museum.jp
時 間：10:00～19:00
休館日：毎週火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始（12月31日・1月1日）
交 通：JR八戸線「本八戸」駅より徒歩10分またはJR各線「八戸」駅よりバスで20分（「三日町」または「八日町」下車）

© Daici Ano

